

☆広告掲載募集☆ご希望の方は
お気軽にお問い合わせ下さい。

料金: 50mm×13mm→表紙 6000 円その他のページ 4000 円
 50mm×60mm→ 2 ページ目以降の掲載 2800 円

Lago Maggiore - Isola Bella



BUONGIORNO

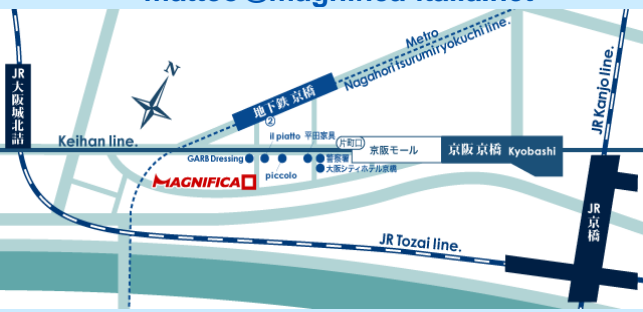
初めまして！この度創刊しましたエッコロ(マニフィカイタリアニュース)です。
 このエッコロを手にして下さった皆さんは、きっとイタリアに関心を持った方がほとんどだと思いますが、イタリアはどのような国だと思いますか？はたまた、イタリアでの暮らしとは日本とどのように違うのでしょうか？ガイドや本をたくさん読んだり、テレビ番組で映像を通して知る、これもいい方法ですよ。だけど、有名な場所だけではなく、イタリアの“普通の毎日”であったり、そこで暮らす人の生の声を聞いてみたいと思ったことはありませんか？

そこで、イタリア語学校マニフィカでは、皆さんに様々な“イタリア”を知って頂くべく、今回エッコロを創刊するに至りました。幸運にも多彩でいろんな観点を持った方々にイタリアに関して記事を寄せて頂きました。これから旅行や留学をする予定の方、イタリア料理やイタリア文化・芸術に興味がある方、たまたまこのエッコロを手にとって下さった皆さんに、よりコアでいろいろな顔を持ったイタリアを知って頂き、イタリアをもっと身近に感じて頂きたい！そして、皆さんの何等かのお手伝いできれば、と思っています。

イタリア語学学校 マニフィカ

www.magnifica-italia.net
 matteo@magnifica-italia.net

〒534-0025
 大阪市都島区
 片町 2-9-21
 ノグチビル 201
 Tel.06-6881-1410



- Recycled paper -

LA SICILIA (梶川 賀代)

シチリア島へいらっしやったことはありますか？私は今、イタリア南部のシチリア島の、そのまた南のバロック建築の世界遺産に制定されたラグーサという小さい可愛らしい街に住んでいます。シチリアに住み始めてもうすぐ2年になろうとしています。この島に初めて訪れたのは2003年、私がまだペルージャ外国人大学で語学留学をしていたころでした。友達数人とレンタカーを貸しきって、まだ見たことのない、なんせ「ゴッド・ファーザー」で有名なマフィアの島、映画「グラン・ブルー」の舞台でもある、澄み切った青い空と青い海に囲まれた島へ行く！と私たちは15時間以上もかけてペルージャからシチリア島へドキドキ胸を膨らませ向かったのです。



そして様々な縁があり、今ここで生活しています。まさか、あのとてつもなく遠く遠く僻地に思えたあのシチリア島で生活することになるなんて、5年前は想像もしていませんでした。ここに住み始めていろいろな人々に出会い、ありがたいことにシチリア人達と仕事をする機会もいただきました。その中でこの島は「ゴッド・ファーザー」のマフィアだけの島ではなく「グラン・ブルー」の青い海と空が本当に存在する島であることを知り、まだ少ないながらもシチリアの文化を吸収することができました。シチリア文化と一口にいっても、中身はとてつもなく深いのです。古来より様々な民族が交差する地中海最大の島シチリアは、原住民のシクリー人→ギリシャ人・フェニキア人→ローマ人→ビザンチン→ノルマン王朝・・・といくつもの民族がこの島を通過し、そのおかげで美術、建築、料理、方言、そして人々の髪や目の色、気質と途方もなく豊かなものになっていったのです。

これから、この新聞を通して様々なシチリアの生活模様と文化そして魅力を皆様にお知らせしていきたいと思えます。



モーレ・アントネッリアーナの塔 (福田 結夏)

私の住む街、トリノについては2006年の冬季五輪によって知る人も増えたかと思います。いろいろと紹介したいことは山ほどありますが、まずはトリノのシンボルともなっている私の大好きなモーレの塔について少し。

建築家アントネッリによって1863年に建てられたモーレの塔は、街のあちこちで目にする時にその独特の形のせいで周りの景色によってはとてもシュールな見え方をするので、私にはお気に入りの見え方ポイントがいくつもあります。それだけでも十分なのに塔の中は国立映画博物館となっており、ここが最高に楽しいスペースなのです！

まず、ドーム内部の中心を上下するガラス張りのエレベーター（私にはちょっとこわいのですが）で展望台へ。ドーム状の空間を登って行くのは不思議な感覚でスリリングでもあります。展望テラスからは、トリノの街並みや美しい丘、そしてラッキーにも晴れて空気が澄んでいれば、

はるかアルプスの山々も望むことができます。映画博物館ですが、展示は5階にわたり中央の空間を望む壁沿いのスロープを移動しながら見てまわります。映画の始まり(からくり映像のようなもの)から現在までの歴史、映画の要素(監督、俳優、脚本など)をテーマにした展示、“愛”などの概念をテーマに作られた10の部



ポー川沿いから見たモーレの塔

屋に身を置いたり、仕掛けに触ったり。また、あるフロアには2つのスクリーンといくつかの横になれるシートがあり、映像を見たり天井との間を上下するエレベーターを眺めたりしてリラックスでき、とても気持ちのいいひとときが過ごせます。展示物の中には、マリリン・モンローが身に付けていた品、巨匠フェリーニやチャップリンに関する品などもあり盛りだくさん。映画ファンにはたまらない、そうでない人も十分楽しめるところです。

大阪出身、1990年よりトリノ在住で仕事はフリーランスの通訳。家族はイタリア人の夫と娘と雄猫。好きなものはスポーツ観戦、映画、ロック、言語、生物学、猫、トカゲ。うーん、ありすぎる！というやっぱり欲張りなB型双子座です。

そうそう、ここを舞台にしたかわいい映画が昨年日本でも公開されました。タイトルは“トリノ、24時からの恋人達”(何というタイトル！)だったと思います。原題は“Dopo mezzanotte”(真夜中すぎに)なので、こっちの方がずっといい。最後に、あまり知られていないのですがトリノはイタリアでの映画発祥の地であることも付け加えておきます。

では、今回は“トリノのスポーツシーンについて”をお楽しみに。

クリスマスを締めくくる BEFANA のお祭り (岡田 美咲)

新しい年の幕開けとして、大きなたき火をして、古い年を忘れるという伝統がイタリアにもあります。1月始めの週末の夜、ポローニャ郊外のおばあちゃんの家に行くと、BEFANA(鬼ばあさん)のお祭りということで、庭は人で溢れかえていました。人をかたどった大きな木に火がつけられ、本格的な花火がいくつも打ち上げられます。そんな中、次々に爆竹が鳴り、大きな狩用の鉄砲を持ったおじさんは、広大な畑に向かって数発撃ち、気分を盛り上げます。このお家のおばあさん(彼女は13人の子どものお母さんなので)、孫、ひ孫とその子ども達がいっぱい、大人も合わせ

て総勢80人の大家族の大きなお祭りです。人型の木が燃え尽きると、みんな家に入り、静かに時を待ちます。子ども達は、期待と不安でそわそわ。なぜならBEFANA がプレゼントを持って家にやって来るからです。ベルがなり、大きな袋を抱えた2人のおばあさんが登場しました。まずは、テーブルの上に持って来たみかん、くるみなどを山盛りに広



げます。子ども達には、「昨年はいい子だったかい？」と聞いてはお菓子が渡されます。時には炭が渡されることも。「いい子にしてたのに」と、首をかしげる子ども達。大人たちは笑いながら「かじってみなさい」と一言。なんと炭の形をしたキャンディーです。ほっとした子ども達の顔は笑顔でいっぱいになりました。クリスマスシーズン最後のお祭りに、夜遅くまではしゃぐ子ども達、おしゃべりに夢中の大人たちの楽しい夜でした。

見たい、しりたいイタリア旅行 (野口 はじめ)

去年の11月から12月にかけて、イタリアへ行きました。何度行っても興味のつきない、イタリア旅行も7度目となり、今回はテーマを持って楽しみたいと計画しました。旅前半のテーマは、大好きな画家カラヴァッジオを堪能すること。ミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマの美術館中心に廻りましたが、特にはじめて訪れたボルゲーゼ美術館のカラヴァッジオの作品はベルニーニの彫刻とあわせ、感動しました。後半は、定年後の趣味である料理(特にイタリア料理)の習得です。

前半、共に旅した妻をローマのフィウミチーノ空港に送った後、ローマ近郊のB&Bでの滞在となり、ここで、宿主のマウリッツィオ夫妻のお世話になりました。

まず、奥さん(ロレーナさん)と彼女のマンマからイタリアの家庭料理の個人レッスンを受けました。日本で何度かイタリア料理のレッスンを受けた経験はあったのですが、何せ堪能とは言えないイタリア語での、仕込み、生地作りから始まり完成まで3~4時間のレッスンは大変であり、かつ充実の時間でした。ロレーナさんが話すイタリア語は、私でも判りやすいものでした。また、マンマの話し言葉は方言が強く、ところどころ理解不能なるも、豊かな表情とゼスチャーで意思疎通はOKでした。



料理はディナーの準備であり、3~4品の同時進行、先生2名で生徒1名の私は指示されたことをアタフタしながら取り組みつつ、メモをとり、写真を取りまくりました。後でメモを見ると、何がなにやらチンプンカンプンで書き直すのに四苦八苦しました。習った料理は、ポレンタのトマトソースあえ、ローマ風トリッパ、玉ねぎと人参のフリット、子羊のロースト、ラザーニャ、ピコッタのタルト、ローマ風プンタレッレなどです。高級食材を使うわけではないのですが、新鮮な食材を丁寧に時間を掛けて、歌でも口ずさみながら(きっと愛情もこめて)つくるマンマの家庭料理は、本当に美味しくブォニッシミでした。そして、ロレーナさんは料理の先生であると共に、ワインのソムリエ、オペラの現役アルト歌手、宿の女将で、まさにスーパーレディでした。

☆寄稿者募集☆

Magnifica Italia News **Eccolo** ではイタリア滞在記やイタリア紀行文などイタリアに関する投稿を募集しております。皆様のご応募お待ちしております！ 宛先: eccolonews@yahoo.it

料理レッスンが始まる前には、宿のご主人(マウリッツィオさん)がワイン畑やワイン醸造所、モツアレラ工場、オーガニックな農場などに案内してくれました。特に小さなワイン醸造所でワインのテイスティングをした時、1リットル240円の赤ワインが本当に美味しかったことは、まさに驚きでした。

また、時間を見つけて好きな遺跡(ローマ近郊のオスティア・アンティカ)めぐりをしました。想像以上に凄い遺跡で、ポンペイにも負けず劣らずの素晴らしさでした。平日のせいか、観光客がほとんどいなく、時間を忘れ、気がつけば4時間以上ブラブラしていました。正月のテレビ番組でローマの歴史を紹介する時に、たびたびオスティア・アンティカの遺跡が写し出されていましたが、それがなぜか嬉しく楽しめました。(ただしオスティア・アンティカの名は出ずじまい)



最後に、今回のイタリア旅行はテーマを持って行ったこと、まがりなりにもイタリア語を学び続けていることで、今まで以上に自分にとって意義のある旅行が出来たと考えています。さて、今年は何をテーマにしてイタリアに行くのか、考えるのも楽しみです。

la ballotta

Open LunchTime 11:30~14:30 (Lo)
DinnerTime 18:00~22:00 (Lo)

Closed 不定休

イタリア料理 ラ バッロッタ の意味は
仲間と楽しく！心地よく！過ごすこと。

www.la-ballotta.com

〒556-0006 大阪市浪速区日本橋東 1-1-9 TEL&FAX 06-6647-3371

京おんな ミラノで暮らす (PEN NAME へびどんな)

京都で生まれ京都で育ち、短大を卒業し3年間介護の仕事を経て、ファッションに興味があったこともあり、学生時代からの夢だったイタリアへの留学を決意し、ミラノへ住み早1年と6ヶ月。イタリア語のレベル的にはまだまだ話せるといえるレベルでもなく、毎日勉強する日々。現在はミラノで販売員の仕事をし、家族とも呼べるほどに私を大切にしてくれる同居人や国際色豊かな友人達、一緒に苦労を理解し毎日一緒に戦える日本人の友人達と出会えることができ、彼等は毎日私に色々なエネルギーを与えてくれ、そのおかげで私は今日も笑顔で過ごせています。私は自分はずごくラッキーな人間だと思っています。



イタリア到着後、まずは語学学校に通い、ほぼ0からイタリア語を勉強。その際、丁度夏休みの期間であった為、クラスはブラジル人、スペイン人、韓国人、スウェーデン人、イスラエル人と国際色豊か！授業はもちろんイタリア語を進みますが、なにせ私達アジア人はイタリア語を習得するのにラテン語圏の人たちよりもはるかに遅い為、鉛筆を持ってサンバを踊るブラジル人を横目に、勉強もみんなの倍はしないとついていけません。しかしみんなイタリアに魅力を感じ目的をもって全世界から集まるので、興味のあるものや趣味が似ていたり共通の話題も多く、言葉がわからなくても一緒に笑ったり、ごはんをたべたり、自分の国の料理を作りあったりして、イタリア文化を中心に他の文化ともふれあえ、又、イタリアや日本だけでなく国際問題等にも目をむけることができました。理解したいし伝えたいという想いの毎日、勉強嫌いの私もなんとかついていくことができました。

イタリアについてから、滞在許可証を取る等の複雑な手続きもあり、やはり同じ国籍の日本人の助けはとても大切になります。特にアジア人は長期での留学目的の人が多いため、日本人だけでなく韓国人の友人も私を沢山助けてくれました。



シェフ: Luca Sambari

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-16-5
CASA ACCA 101 Tel. 06-7174-4247

La Cantinetta
Osteria



ラ カンティネッタ



月~金 18:00-24:00 土 18:00-22:00 日 休み

PIACERE (西岡 芳栄)

PIACERE! 皆さんはじめまして。西岡よしえと言います。現在、イタリア北東部の街パドヴァで日本語教師をしています。

これを読まれている皆さんは、イタリア語を勉強していたり、なにかしらイタリアに興味がある方が多いと思うのですが、イタリアにも日本が大好きで、日本語をこつこつ勉強しているイタリア人がいます。理由は人それぞれ。近年、アニメやマンガがヨーロッパでも大流行していますが、それらにハマってしまった人。和風建築やインテリアデザインから日本語に興味を持った人。なんと三島を読んで、日本文学に開眼してしまった人など・・・本当に様々です。その中でも多くの人が私に言うことは、「日本のような素晴らしい国から、どうしてイタリアに移り住んできたんですか!？」隣の芝生は青いといいますが、私も昔からイタリアに憧れていたもので、彼らの気持ちはわかります。

ところで日本語を教えていておもしろいのは彼らの授業態度です。とにかく積極的に毎回質問がいっぱいです。文法の説明をしているのに、『『いつてらっしゃい』の『や』は小さい『や』ですか?』なんて関係ない質問が飛び出すのもイタリア式。みんなかなりマイペースです。授業中に、日本のニュースや習慣についてなど、語学以外の話をするのもしばしば。そんなときは特に興味津々です。彼らと話していると、イタリア人の日本観が見えてきます。そして、日本人の慎ましさ、優しさ、気遣い、伝統を愛する心の素晴らしさを語る彼らを見ながら、彼らの考える日本が今もどれくらい残っているのかなど、ふと心配になります。彼らが日本に行くとき、そんな日本を少しでも感じてもらえることを願っています。イタリア人に日本語を教えながら、逆にいろんなことを彼らから教わる毎日です。

大阪外国語大学イタリア語科卒業後、2003年にイタリア、パドヴァ県に移住。同県の語学学校 Istituto IL MULINO で、日本語教師、日伊語翻訳をしている。
www.scuolamulino.it



Tel. +390498830912

Scuola Il Mulino - P.tta la Marmora, 4 - 35020 Legnaro Padova - Italy

イタリア語学校 IL MULINO (イル ムリーノ)はパドヴァの中心から15キロ先に位置する町、Legnaro (レニャーロ)にあります。近年パドヴァ大学の3学部が移転され、この小さな町は学生たちの若さと活気に溢れています。観光客で溢れた大都市とは違い、素朴なイタリア生活を垣間見ることができます。また、物価の高さや治安の悪さとも無縁です。

www.scuolamulino.it

info@scuolamulino.it

- Recycled paper -